

なぜ今「地域働き方・職場改革」に取り組むのか

- 若年層を中心に地方からの転出超過が続いている。特に女性は、進学等で都市部に出たのち、就職等で地元に戻る者が少ない。
- こうした転出行動の背景には、若い世代の意識と職場を含む地域社会との間のギャップがある。

若い世代の男女の意識の変化

例えば…

男女ともに働き、ともに子育てをする
「共働き・共育て」の感覚が一般化

若い世代の女性の理想のライフコースに関する意識の変化

女性の理想のライフコースは

専業主婦コース？

or

再就職コース？

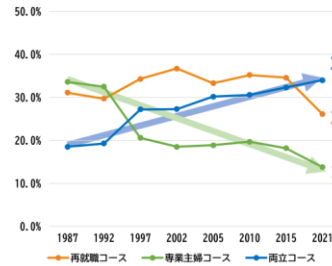
or

両立コース？

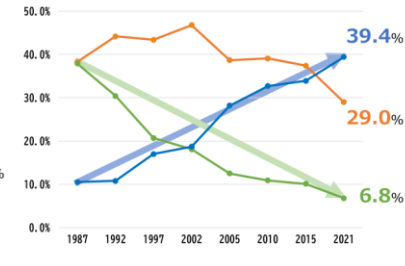
結婚・出産の機会に一旦退職
子育て後に再就職

結婚・出産後も
仕事を続ける

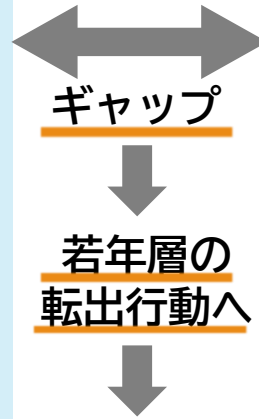
独身女性の理想のライフコース



独身男性がパートナーに望むライフコース



男女ともに初めて **両立コース** が最多に。



職場を含む地域社会の現状

「男は仕事・女は家庭」等の固定的な性別観に関わる
アンコンシャス・バイアスが残っていると指摘

地域の職場における課題

アンコンシャス・バイアス
(無意識の思い込み)



働き方の課題

男性は休日出勤・残業も厭わない？
男性は営業、女性は事務？

- ・採用等における男女差
- ・男女双方の長時間労働
- ・休暇休業の取得しづらさなど

地域（職場外）での女性役割に関する声

「地域の行事や集まりで、女の人が料理よそつて、男の人が座って食べてるのを見て、私も将来こんなことやらなきゃいけないのかな…と思う。」

(19歳・山形県出身)

- 若年層、とりわけ若年女性の人口流出が続く状況を打開するには、東京圏にはない「豊かさ」等の地方の強みを活かしつつ、若い世代の行動や意識の変化を直視し、地方が抱える弱みの克服が必要。また、当事者である若者や女性の視点を取り入れることが重要。
- 地方から東京圏に移り住んだ若年層(20代・30代)への調査では、東京圏へ転出した理由として、就職先の選択肢の豊富さや、やりがいがある就職先の存在等の職場関係の理由を挙げる者が多い。

地域の働き方・職場改革を起点として、地域社会の変革に取り組んでいく